



7年たった今も、7万人が避難生活

福島県民の健康管理は国の責任で

インチキの「モニタリングポスト」で 福島は安全とゴマカシ続けている政府

3月7日(水)の夕方、岩見沢自治体ネットワーキングセンターにて、「さようなら原発・戦争させない空知集会」があり、



100名を超える参加者が集まりました。実行委員長の竹中さんの挨拶のあと、約1時間にわたって、北海道ガンセンター名誉院長の西尾正道さんの「放射線の健康被害を正しく知る」という講演がありました。

西尾さんは、放射線治療の医師の立場から、「政府はインチキなモニタリングポストで、実際の数値より45%少ない数値を発表し、福島は安全とゴマカシ続けている」と告げました。いま、福島では内部被ばくが大問題になっていること



(3重水素)の危険性も指摘し、有機結合トリチウムが体内に入り込み、DNAに損傷を与え、農薬汚染と遺伝子組み換え食品によって、生命や健康を脅かす複合汚染が福島で起こっている」と述べました。

西尾さんは、多くの著書の中で、

「福島第一原発事故から7年の歳月がたち、今なお7万人以上の人々が避難生活を余儀なくされ、体調悪化等による「原発関連死者」は2千人を超えていると報

『都合のよい物語』で国民を だまし続ける原子カムラ

とを隠し、外部被ばくは問題ないとしていきます。水に溶けやすい微小の放射性物質が空気に漂い、そこに住む福島県民の体内に吸い込まれ、体の内部から被ばくしている状況を指摘しました。

また、トリチウムを隠し、外部被ばくは問題ないとしていきます。水に溶けやすい微小の放射性物質が空気に漂い、そこに住む福島県民の体内に吸い込まれ、体の内部から被ばくしている状況を指摘しました。

また、トリチウムを隠し、外部被ばくは問題ないとしていきます。水に溶けやすい微小の放射性物質が空気に漂い、そこに住む福島県民の体内に吸い込まれ、体の内部から被ばくしている状況を指摘しました。

講演：「放射線の健康被害を正しく知る」
西尾正道 (北海道がんセンター 名誉院長)

http://www.com-info.org/
がん医療に関する情報を提供

2018年国際女性デー夕張集会開催！ 11月8日は世界で日本各地で集会！！

およそ百年前に、アメリカの女性たちがパンと参政権を求めて起こした運動に始まるのが国際女性デー。日本では1928年から、平等・平和など、その時々々の課題をかがけて各地で集会が開かれています。

夕張集会では、実行委員長代理の久世公子さんがあいさつし、紙とも子参議院議員や鈴木夕張市長からメッセージが寄せられています。紹介されました。

来賓としてくまがい桂子議員が出席し、破綻から10年、市民が声をあげることで、暮らしが改善されてきたこと、市立診療所の移転問題、そして9

第一条改憲への危機感などを話しました。第一部「9条改憲ってなに？」DVDで学習し、戦争させないために9条を改憲させないこと、もし自衛隊が加筆されれば、新条項が優先し、戦争放棄の項は効力が薄められるという重大な危険が潜んでいることを学び、何としても9条改憲を阻止するために、3000万署名を頑張ろうと誓い合いました。

第二部「脳がよるこぶ・笑顔がうまれる」

では、講師の平村美千子さんが、両手でいろいろな身体反応をする中で、脳が知らず知らずに刺激されて、良い効果を生むことを楽しく進めて下さいました。「間違ってもぜんぜん大丈夫」という声に励まされ、「頭がいたくなった」「体があつくなってきた」と言いながらも楽しい笑顔をとお土産に家路につきました。



くずさんの 夕張歴史散歩(83)

労務課の調査資料のファイル 大きな「極秘」の印判

ここに労務課で作成した名簿があります。それによると1973年(昭和48年)10月当時の北炭の第二新鉱の鉱員400名余と退職鉱員の名前が列挙されています。

これらの中に「極秘」と朱印が捺された名簿があります。理由の欄にはCP関係と書いています。CP関係とは何か。察するにはCommunist Partyの略か。

これに「極秘」の印を捺するのは、正面切つて正しい事をやっていない、秘密裡に悪い事をやっている事を自覚しているのです。まさに秘密警察そのままです。

「㊦とか、CPとか」人権侵害

北炭では内部で㊦とかCPとかの隠語で、労働者を差別選別しています。明らかに人権侵害であり思想信条の自由を侵害しています。戦前の治安維持法や特高という亡霊がうようよしています。こんな悪質な憲法違反を許す訳にはいきません。

結果がもたらしたものの

これら北炭の労務政策の結果は、どうなったでしょう。ゆえなく差別された労働者たちの度重なる警告を無視し、保安の不十分のまま採炭を強行します。

そして北炭新炭鉱で、1981年10月15日53名の犠牲者をだす重大災害を発生させたのです。

当然にも社会的批判をうけて、遂には夕張から逃げ出したのです。

もはや正義は、どちらにあったかは明らかです。



畠山 和也「かけある記」
前衆議院議員

畠山 和也

この国は首相独裁の国家にあらず

この原稿は毎週月曜日の昼まで書き上げるようになっていきます。みなさんが読むころには状況が変化していることも、しばしばあります。今なら森友学園の土地取引に関する公文書「改ざん」問題ですが、日々刻々と状況が変わるものも珍しい。それだけ安倍政権の内部に矛盾がたまりにたまって、風船のように膨らんでいるからなのです。

思い返せば昨年は、南スーダンの派遣部隊から送られる「日報」の隠ぺいから始まり、森友学園の次には加計学園の疑惑があり、今年に入って裁量労働制のデーターねつ造もありました。これだけ政権内部の問題があふれ出すというのは、もう安倍首相のもとでは統治できないと告白しているようなものです。なかでも今回の「改ざん」は、国会へ出す資料までウソをついていたのですから悪質です。いったい安倍政権は、誰を守ろうとしているのでしょうか。

現職のとき、ある国会職員がポツリと「このままでいいのでしょうか」と私につぶやきました。「国権の最高機関」であるはずの国会で、やりきれない思いを抱えているのかもしれない。そう、憲法を読めば国民主権も、国会の役割も明記されています。この国は首相独裁の国家ではありません。

紙智子参議院議員と緊急の街頭宣伝にとりくんだら、ピラを受け取ろうと次から次へ手が伸びました。変える力はここにある。市民と野党の共闘でこそ安倍政権は変えられる。強く確信しながら、全道で訴えにまわります。